関西大学『独逸文学』第 64 号 2020 年 3 月

2018 年度卒業論文紹介

福瀧　量子

現代ドイツ語聖書における翻訳の多様性
―マタイによる福音書 5 章 3 節～ 10 節に即して―

1. この卒論では、ドイツ語聖書の翻訳の多様性について調べた。原典であるギリシャ語聖書と 9 種類のドイツ語聖書、そして 2 種類の日本語聖書を用いて、「山上の垂訓」と呼ばれるマタイによる福音書 5 章 3 節～ 10 節の箇所の表現をみていった。

2. 具体的には、ギリシャ語の単語のまとまりごとに、そのギリシャ語がドイツ語でどう翻訳されているかを調べた。例えば、5 章 3 節「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」のギリシャ語は Μακάριοι οἱ πτωχοὶ τῷ πνεύματι, ὅτι αὐτῶν ἐστιν ἡ βασιλεία τῶν οὐρανῶν. となっている。

μακάριοι は形容詞 μακάριος「幸福な」の男性複数主格形であり、ドイツ語では selig と訳されているものが多いが、glückselig や Wohl denen, die... と訳されている聖書もある。

οἱ πτωχοὶ τῷ πνεύματι を直訳すると「霊において貧しい人たち」となる。τῷ πνεύματι は τό πνεῦμα（霊）の中性単数与格形であり、この与格の用法は、限定の与格（ある言述がどのような側面について言えるかを限定する）と呼ばれる用法である。ドイツ語では、τῷ πνεύματι「霊において」の部分が im Geist と訳されているものや、geistlich と訳されているもの、また、vor Gott と訳されているものもある。im Geist はギリシャ語に忠実な訳であり、vor Gott は分かりやすくした訳である。

また、ギリシャ語原典の Μακάριοι οἱ πτωχοὶ τῷ πνεύματι の部分では、繫辞の動詞が省略されている。そのため、ドイツ語聖書でも sind が省

略されているものもある。

ἡ βασιλεία τῶν οὐρανῶν を忠実に訳すと「もろもろの天の王国」となる。τῶν οὐρανῶν が ὁ οὐρανός「天」の男性複数属格形である、つまり「天」は複数形であるということが重要である。ドイツ語聖書では das Reich der Himmel という訳や das Himmelreich という訳などがあり、前者の訳では Himmel「天」が複数であることが明示されているが、後者では明示されていない。

他の箇所も、以上のように、細かく語句や文法に注目していった。

3. 9 種類の聖書の中でも、Gute Nachricht Bibel（GNB）は面白い訳が多かった。GNB は、パラフレーズ（語句の意味を分かりやすく別の言葉で述べること）を使った訳なので、理解しやすく、聖書に親しんだことのない若者などには受け入れられやすいかもしれない。しかし、ギリシャ語原典の表現があまり尊重されていない訳であるため、従来の訳に慣れている者は驚くかもしれない。

また、GNB 以外の聖書にも、特徴を見つけることができた。

Jörg Zink 訳は、GNB ほどではないが、特徴的な部分があった。5 章 3 節の後半部分と 10 節の後半部分は、ギリシャ語原典ではまったく同じ ὅτι αὐτῶν ἐστιν ἡ βασιλεία τῶν οὐρανῶν という表現である。ドイツ語聖書でも Zink 訳以外の聖書では 3 節の後半部分と 10 節の後半部分では同じ表現が使われているのに、Zink 訳では、3 節では Ihrer ist das Reich Gottes.、10 節では Ihnen gehört die Liebe Gottes und sein Reich. というように、異なった訳になっているのである。

Hans Bruns 訳では、μακάριοι の訳として Wohl denen, die... という表現が使われており、これは他の聖書では使われていない特徴的な表現である。

その他の点をみても、GNB、Zink 訳、Bruns 訳には特徴的、個性的な訳が多くみられるが、Elberfeld 聖書はそれらとは対照的である。Elberfeld 聖書は、今回扱った 9 種類の聖書の中で、最もギリシャ語原典に忠実であった。もちろん、すべての表現が完全に忠実であるというわけではなく、例外もあったのだが。

Luther 聖書、Zürich 聖書、Einheitsübersetzung、Herder 版、Menge 訳、

Elberfeld 聖書の 6 種類の聖書は、GNB、Zink 訳、Bruns 訳の 3 種類の聖書に比べると、全体的にギリシャ語に忠実な訳が多く、意訳は少ないように思えた。Zürich 聖書、Einheitsübersetzung、Herder 版、Menge 訳、Elberfeld 聖書は、Luther 聖書の影響を受けたのかもしれない。あるいは、Luther 聖書をはじめとする 6 種類の聖書の翻訳者は、ギリシャ語原典になるべく忠実に訳そうとしたのかもしれない。

GNB、Zink 訳、Bruns 訳を見たあとに、他の 6 種類の聖書を見ると、少しつまらないとすら思える。それだけ、GNB、Zink 訳、Bruns 訳の表現が特徴的で、意訳が多いということであろう。

山下　順加

バウハウスという革命
―様々な転換期をふまえて―

今回の卒業論文のテーマを選ぶにあたって、筆者はドイツ戦間期における芸術学校の代表としてバウハウスに注目した。現代芸術の革命者ともいえるバウハウスであるが、14 年という短期間で閉校されたこと、またその短期間のうちに 3 度の移転を経験していることに筆者は疑問を抱いた。そこで、バウハウスが如何にして設立され、また移転への道を辿ったのか、3 度の移転に焦点を当てて分析した。本論文第 1 章では、バウハウス設立までの歴史とバウハウス設立当初の教育理念というバウハウスの概要を述べる。第 2 章から第 4 章では、それぞれヴァイマル、デッサウ、ベルリンにおけるバウハウスについて述べる。第 5 章では、バウハウス閉鎖後のバウハウス理念の波及について、ニュー・バウハウスを例に挙げて述べる。

バウハウスとは、現代の芸術やデザインの概念である「Stil」という概念を確立させた学校である。設立者のヴァルター・グロピウスは、当初のバウハウスに、手仕事を中心とした実践的教育、建築を中心とした総合芸術の確立という 2 つの目標を置いた。バウハウスの教師陣には創設者ヴァルター・グロピウスをはじめ、名だたる芸術家が集まり、マイスターとして徒弟を育てた。徒弟のなかには卒業後バウハウスのマイス

ターとして活躍したものも少なくない。バウハウスによって、バウハウス設立以前の産業と切り離された芸術が、産業のプロセスへと取り入れられた。バウハウス設立以前の芸術はいわゆる「装飾芸術」と呼ばれ、視覚的美を楽しむあくまでも「芸術」であった。しかし、バウハウスの誕生によって芸術が産業に参画し、消費者目線でのデザインの誕生に力添えしたのである。このように、視覚的美を追求した「芸術のための芸術」は、機能性の優れた製品の製造へのプロセスへと変化したのである。

さて、分析をしていくなかで、バウハウスでは外部からの圧力による移転時期だけに限らず、バウハウス内で様々な転換期を踏んでいたということに気づいた。ヴァイマル時代には、機械技術の導入という指導理念の転換を迎えた。これは、手仕事にこだわる以前までのバウハウス教育と相反する大きな転換であった。デッサウ時期には、校長が2度代わった。そして、どちらの校長もそれぞれ独自の教育理念を貫き通した。マイヤー時期には、製品に「機能」の追究といった消費者目線での製品製作に努めた。これは、今もなお継承される「Stil」という概念の始まりともいえる。ミース時期には、当時の社会情勢を踏まえて、ふたたび学校としてのバウハウスを追求した。バウハウスは、社会に通じる芸術を求めて改革し続けていたのである。

様々に変革してきたバウハウスだが、外部からの圧力が常に付きまとっていた。その非難項目の特徴として2つ挙げられる。1つ目は共産主義的学校とみられたことである。実践的な教育を目指したバウハウス教育は、当時の典型的な美術学校の教育方法とは異なり、その改革志向に反発する者は多かった。また、実際にバウハウス内に共産主義者が存在し、彼らが共産主義グループとして活動していたことも理由の一つである。例を挙げると、デッサウ時代の校長であるマイヤーは、共産主義者であることを公表していた。その教育方針は「Werk（労働）」を主軸に置いており、それは共産主義的な特徴とも垣間見れた。2つ目に、バウハウスのコスモポリタン的性質が関係している。バウハウスは、学生に限らず教師も多種多様な価値観をもつ集団であった。バウハウス設立当初の学生のうち大半は20歳前後だったが、17～40歳までの学生が在籍し、また全体の3分の1が女子であり、近代的なシステムであった

ことが窺える。そのため、バウハウスの理念に賛成しているものの、決して彼らの価値観は統一されてはいなかったのである。この価値観の不一致が外部からの圧力だけでなくバウハウス内部での軋轢に繋がることもあった。外部からの圧力という点に焦点を当てると、この「コスモポリタン」的とは、「ユダヤ」的と言い換えることができる。バウハウスには近隣国からの教師や学生も多数おり、そのなかにはユダヤ系の人もいた。そして、デッサウ時代後期には、州議会においてナチスが大多数を占めるようになり、バウハウスの閉鎖を要求したのである。1932 年には、バウハウス解体の動議が採択され、デッサウのバウハウスは閉鎖、その後私立学校としてのベルリン・バウハウスもゲシュタポによって封鎖された。これらのことから、現代芸術と伝統的芸術に関する論争には政治的姿勢が固く結びついていることが読み取れる。バウハウスは政治的な理由で弾圧されたのである。

当時の社会情勢によって閉鎖に追い込まれたバウハウスだが、これが世界にその概念が波及した理由でもあった。バウハウスに関わった人物の多くは、他国に帰国、移住、または亡命している。バウハウスの閉鎖によって、多くのバウハウス関係者の故郷や、ドイツからの亡命先である他国でバウハウスの理念は世界的規模において展開し、継承されたのである。特にアメリカ合衆国では、バウハウス設立者であり初代校長のグロピウスを含むかつての主要な教師たちが続々と移住している。第二次世界大戦の戦勝国であるアメリカ合衆国のその後の世界的役割は、現代社会を見れば、誰もが理解し得る。現代における重要国であるアメリカ合衆国へと移住したことが、バウハウスが単なる学校としての名称ではなく、「バウハウス教育の理念そのもの」を指す言葉へと変化するに至った理由なのである。ニュー・バウハウス（The New Bauhaus）を例に挙げて考えてみると、バウハウスの教師であったモホリ＝ナギが校長として招聘され、デッサウのバウハウスでのプログラムを継承した。財政難によって、わずか 2 学期間で閉鎖されたが、モホリ＝ナギは、新たに「シカゴデザイン学校」（School of Design in Chicago）を設立した。この学校はミースの死後 1949 年にイリノイ工科大学に合併され、教育プログラムには多くの修正が加えられているものの、予備課程は新しい教育システムにも制度化され、現在も存続している 。

絶えず変化を追求し、また自由な風土を求めたバウハウスは、教育機関であると同時に、工房であり、労働体であろうとした。多数派の保守的な社会や人々は、その変化を恐れ、非難し、追放しようとしたのである。しかし、バウハウスの追求しようとしたものが正しかったことは、現代に生きる我々からみると明白である。批判や非難を受けながらも、常に芸術の真髄を追求したバウハウス理念の恩恵を現代芸術は受けているといえる。バウハウスは革命者であると同時に、革命そのものであった。絶えず変化したバウハウスという革命が、現代社会に、特に現代の産業界に「Stil」という概念を残したのである。バウハウスに関する情報は膨大で、その教育方法、工房での活動、バウハウス製品等本論文では触れるにとどまった。しかし、このバウハウスの多面性がよりバウハウスを魅力的にしている。新たな技術の革新や、発明によって製品は変わりゆくものである。しかし「Stil」というバウハウスのもたらした概念は、今後も変わることはないだろう。